

名画で韓日を結ぶ

日本を代表する洋画のレリーフを韓国に展示



光州市立美術館などに展示される「海の幸」のブロンズレリーフ



日本洋画界を代表する傑作とされる青木繁「海の幸」(石橋財団石橋美術館提供)

日本洋画界を代表する作品として知られる青木繁作「海の幸」を原型とするブロンズのレリーフ3体が、韓国の美術館に寄贈され、3月に展示される。在日2世の河正雄・光州市立美術館名誉館長(76)が、「韓日交流の一助になれば」と制作費などを支援した。河名誉館長に文章を寄せてもらった。

韓日5カ所に設置

2015年9月5日、第19回戦争遺跡保存全国シンポジウム千葉県館山大会が開かれることになった。私はその大会で、館山の戦跡、里見氏の城跡や、青木繁「海の幸」誕生の小谷家住宅など様々な文化遺産を後世に残すという、ダイナミックな地域づくりに取り組んでいるNPO法人安房文化遺産フォーラムの依頼で、記念講演を行うことになった。

「刻画・海の幸」寄贈にあたり

寄稿 河正雄(光州市立美術館名誉館長)



河正雄名誉館長

の始まりである。富樫君の紹介で、NPO代表の愛沢伸雄氏、事務局長の池田恵美子氏、彫刻家の船田正廣氏(1938)を知った。

そのとき、NPOの方から布良に案内され、青木繁「海の幸」ゆかりの地・小谷家を訪問したことで、青木繁(1882-1911)の足跡と存在を見ることになった。70年代後半から、私のコレクションである在日一世画家・全和風の画業50周年を記念した画集の制作に当たっていた。その画集に、美術評論を書いていたたく願いのため、東京駅八重洲口にあるブリヂストン美術館の嘉門安雄館長を訪ねたことがある。そのとき、嘉門先生の案内で美術館を鑑賞した。

と記念碑を保存する会を立ち上げるので、ぜひ河さんも発起人になって協力をお願いします」と言われた。私は発起人を引き受け、「小谷家住宅が公開になるときに、船田先生の作品をブロンズにするなら、ぜひ韓国の光州市立美術館にも置きたいから、一緒に作りましょう」と提案した。

展示されていたルノアールやセザンヌ、ピカソやモネの作品にも目を見張ったが、青木繁の『海の幸』作品に心動かされたのである。ロマンに満ち、生命力あふれた躍動感と、汗と海のおいが充満している。労働の喜びが表現され、いたく感動したものだ。

船田先生が、「私は、青木繁の『海の幸』を原寸大で彫刻し、塑像レリーフ作品を3年の歳月をかけて制作した。できあがって気がついたら、青木が『海の幸』を描いてからちょうど100年目(2004年)だった。青木繁ゆかりの小谷家を文化財にして残し、小谷家に展示するのが夢だ」と述べられた。

愛沢氏からは、「これから小谷家住宅の保存のために、全国の画家の皆さんに呼びかけて募金活動に取り組みます。青木繁『海の幸』誕生の家

と題して、共にご慶事を祝し守りたい。
*「海の幸」は1904年、青木繁が漁家の小谷家に40日間滞在した際、地元住民との交流から着想を得て製作した、日本の洋画第一号の重要文化財。